

情報公開文書書式

研究課題名	回復期リハビリテーション病棟におけるサルコペニア診断：四肢骨格筋数の補正法の違いが予後に与える影響
所属部署	長崎リハビリテーション病院 臨床部
研究責任者(職名)	高木琴葉（管理栄養士）
研究期間	承認日～2026年11月30日
研究目的と意義	サルコペニアは骨格筋量の減少と筋力低下を特徴とし、転倒や機能障害、予後と深く関連しています。2025年にアジアサルコペニアワーキンググループ(AWGS)による基準が改訂され、骨格筋量の判定において「身長補正」に加え「BMI補正」も使用可能となりました。しかし、回復期リハビリテーション病棟の患者さんにおいて、これら補正法の違いがサルコペニアの該当率や予後にどのような影響を与えるかは、まだ十分に検証されていません。そこで、当院に入院された患者さんを対象に、骨格筋量のBMI補正および身長補正によるサルコペニアに該当する患者さんの割合を比較し、日常生活動作や自宅復帰、在院日数との関連を検証します。サルコペニア患者を早期に把握し、適切な栄養、リハビリテーション介入へ繋げることで、身体機能やADLの改善に寄与する可能性があると考えます。
研究内容	●対象となる方
	2018年11月～2020年10月に当法人回復期リハ病棟に新規入院した50歳以上の患者
	●利用する情報
	カルテ内に記載された年齢、性別、病名、発症日、入院日、退院日、入院前要介護度、入院時FIM（運動・認知・合計）、tFIM effectiveness、身長、体重、下腿周囲長、四肢骨格筋量(kg)、最大握力、歩行速度、Malnutrition Universal Screening Tool（MUST）、GLIM基準による低栄養、自宅復帰、在院日数等の情報
研究内容	●研究方法
	上記の内容からAWGS2025を用いてサルコペニアを判定し、主要アウトカムをFIM利得、副次アウトカムを自宅復帰、在院日数とし、対象者（①50歳以上、②50～64歳、③65歳以上、④BMI 25kg/m ² 以上）ごとに分類し検証する。
問い合わせ先	所属：一般社団法人是真会 臨床研究開発部（PACS）高橋 住所：長崎市銀屋町4-11 電話：095（818）2002 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）